

国賠同盟—レパ反対同盟—救援会

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟

『不屈 神奈川版』2012年3月号5頁

下山房雄（神奈川レパ反対同盟員）

民主化を要求して抵抗する自国民の殺害を、シリアのアサド政権はこの十カ月続けてきた。毎日「天安門」（八九年六月四日）という事態だ。行政不許可の集会デモへの発砲—殺害は、戦後日本でも五二年五月一日の皇居前＝人民広場での事件など何回かあった。この正月五日に亡くなった林光作曲の「たたかいの中に」は、メーデー事件で殺された都庁労働者高橋正夫の遺稿から歌詞をとったものだ。

近年の日本では、直接の殺戮に至るような国家の暴力は見られない。しかし、ビラ配布が犯罪として刑事犯罪に問われ、逮捕、拘留、裁判、有罪というベルトに乗せられる日本の現状は、この本質が変わってはいないことを明示している。この十年、賃下げ強行で儲けを続けた大会社は利潤蓄積＝内部留保二六〇兆円を貯めた。その業績を挙げた功績のご褒美として年数千万円数億円の個人所得を得ている人たちが、ささやかな春闘賃上げや最賃引き上げに反対し、雇い止め自由の労働市場を規制することに反対する言説をメディア上で得意になってやっているののである！

多くの庶民がぼんやりと自分たち国民を保護するものと考えハイハイと従っている国家が、政治の民主的改革に立ちあがる人々に暴力的に襲いかかることが、このように、歴史上繰り返されてきた。私は八年前、退役一年金生活に入る際、約九〇の会費、購読費、定期カンパ送り先を一桁にまで縮小した。百近いいずれも、当該運動事業に参加することが社会を意識的に構成する公民としての市民に必要であり、加えてそれらから受け取るミニメディアの情報が社会科学者として認識を深め正すために不可欠だった。しかし、人生終末過程でのやむを得ない整理と判断した営為だった。しかし、その後の海老名の生活の中で、新たに標題の三つの組織に加わったのである。これらの組織が、日本近現代各段階での国家の自国民人権蹂躪を正そうとするものであることは、国賠同盟湘北支部の同人皆さんは熟知のことですよね。ともに頑張りましょう。

【国賠同盟『不屈』神奈川湘北版3号2012・2・15刊、に当初掲載。

ただし傍線部分はより簡略表現の異版】